

論文の体裁と執筆の要項

—卒業論文を書く人のために—

論文の体裁と執筆の要項についての詳細は、日本心理学会「執筆・投稿の手びき」などを参照するとよい (<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html> から 2005 年版のダウンロードが可能：また、研究室にも貸し出し用に数冊ある)。以下には論文を書く上で最低限、知っておくべき基本的な事柄についてのみ記す。

1. 論文の構成

論文の構成は問題・方法・結果・考察・文献などの各部分から成り立っていることが望ましい。どうしても必要な場合、付表ないし付録を添えることがある。ただし、それぞれの研究の特殊事情に応じて、第一部：理論，第二部：実験，と書く場合や，実験ごとに方法・結果・考察をまとめて（例えば，実験 I, 実験 II など）書く場合もある。

人が読むときに論理的に追いやすいよう，整理された形であれば，必ずしも体裁にこだわる必要はない（論文指導室にあるこれまでの卒業論文などを参照するとよい）。

2. 論文の図表

図や表は必要最小限のものを添えること。論文用紙に直接書き込み・プリントしても，別紙を張り付けるのでもよい（張り付けるときは，きれいに仕上がるように要注意）。

3. 論文の文章

論文の文章は口語体で書き，明確簡潔であること。口語体とはいっても学術論文としての風格を保たせるようにつとめること。たとえば， unnecessary 俗語などは使わないようにする。

* **数字**：数量・順序・年月日などを表す数字はアラビア数字を用いる。

固有名詞や熟語，または数量を表す意識の弱い語は，漢字または平仮名書きとする。

(例) 一人前，ひとりひとり，… など。

文中・表中の表記はアラビア数字を用い，3桁ごとに「,」を入れることが望ましい。

数字についての度量衡単位は，国際度量衡表記による。(例) 5m, 10kg, … など。

4. 文献の引用

(1) 文中で文献を引用するときは，その後に著者名(姓のみ)および出版年を括弧に入れて

(Piaget, 1968)のように添える。ただし，混同するおそれがあるときは，欧文であれば名のイニシャルを(Piaget, J. 1968)，邦文であれば名を添える。

(2) 文中に著者名が引用されていれば，著者名の直後に出版年のみを括弧に入れて添える。

(例) また Bezzi (1996)は，…

(3) 文献の記述の一部を直接引用するときは，原文(訳文)のとおり正確に転記する。

(4) 引用文が短い場合には，引用文を別行とせず，本文に続け引用符(“ ”)で包む。

5. 引用文献表

文献表の各項は著者の姓により，アルファベット順に配列することを原則とする。以下に引用文献の代表的な記載例を示す。

* **単行本**： 池田 央 (1971). 行動科学の方法 東京大学出版会

* **編・監修**： 下條信輔 (1996). 感覚・知覚 鹿取廣人・杉本敏夫(編) 心理学 東京大学出版会 pp. 119-158.

- * 翻訳書： ショシヤール, P. 吉岡修一郎(訳) (1952). 意識の生理学
白水社 (文庫クセジュ)

- * 邦雑誌： 牧野達郎・上野雄宏 (1959). 大きさの恒常性の測定における問題点
心理学評論, 3, 226-240.

- * 欧文献： Averill, J. K. (1980). A constructivist view of emotion. In R. Plutchik
& H. Kellerman (Eds.), *Emotion: Theory, research, and experience*,
Vol. 1 (pp.305-339). New York: Academic Press.

- * 欧雑誌： Brandt, T. J. (1982). The features and effects of friendship in early
adolescence. *Child Development*, 53, 1147-1460.

6. 提出論文の書式

- ・ A4 サイズの上質紙に片面印字する。
- ・ 縦長、横書きで原則として、40 字×30 行（1 ページあたり 1200 字）打ち出しとする。
- ・ 余白は原則、上端 30 ミリ、下端 30 ミリ、左端 40 ミリ、右端 20 ミリとする。
- ・ 表紙・綴じ方について特に指定はしないが、論文が散逸しないように左側を適当なフ
ァイル等で綴じて提出する（糊付けによる簡易製本はしないこと）。ファイルなどにつ
いては教育心理学研究室で貸し出しも行う。